

健康寿命延伸のための「社会健康医学」推進委員会
拠点設置検討部会(第1回) 会議録

日 時	平成 30 年 6 月 6 日 (水) 午前 10 時 30 分から午前 12 時 00 分まで
場 所	グランディエールブケトーカイ 4 階「ワルツ」
出席者 職・氏名	出席委員：6 名（敬称略） 宮地良樹、鬼頭宏、鶴田憲一、中山健夫、松田文彦、望月律子 欠席委員：2 名（敬称略） 徳永宏司、宮田裕章 事務局 県参与 山口重則 健康福祉部長 池田和久 健康福祉部部長代理 藤原学 健康福祉部理事 鈴木宙志 健康福祉部管理局長 前島稔生 ほか健康福祉部職員
議 題	1 静岡県が目指す大学院大学のあり方について 2 大学院大学の設置に向けた需要調査の実施について 3 その他
配布資料	議事次第 資料 1 健康寿命延伸のための「社会健康医学」推進委員会拠点設置 検討部会委員名簿 資料 2 健康寿命延伸のための「社会健康医学」推進委員会・検討部 会の進め方 資料 3 静岡県が目指す大学院大学のあり方 資料 4 大学院大学の設置に関し文部科学省と協議を要する事項 資料 5 静岡県が目指す大学院大学のあり方に関する論点 資料 6 大学院大学の設置に向けた需要調査（案） 参考資料 大学院の課程（修士課程、専門職学位課程） 参考資料 大学院の事例（大学院大学、独立研究科） 参考資料 需要調査の事例

1 審議事項

- (1) 静岡県が目指す大学院大学のあり方について
- (2) 大学院大学の設置に向けた需要調査の実施について

2 審議内容

池田健康福祉部長から、資料 2 により「健康寿命延伸のための「社会健康医学」推進委員会・検討部会の進め方」について、資料 3 により「静岡県が目指す大学院大学のあり方」について、資料 4 により「大学院大学の設置に関し文部科学省と協議を要する事項」について、資料 5 により「静岡県が目指す大学院大学のあり方に関する論点」について、資料 6 により「大学院大学の設置に向けた需要調査（案）」について、説明した後、各委員による議論を行った。

(1) 静岡県が目指す大学院大学のあり方について

ア 大学院の課程

- ・ 既に現場で働いている方のキャリアアップを目的としていることからすると、専門職学位の方が良いのではないか。
- ・ 専門職学位課程で行っている大学院では、国際標準の5領域（疫学、医療統計学、環境科学、保健医療管理学、社会・行動科学）を網羅することに苦慮している。一方で、一般の修士課程の場合は、学問領域について柔軟に運用しているところが多いため、一般の修士課程で柔軟に対応する方が現実的ではないか。
- ・ 実務者と研究者の両方を育てることを考えると、一般の修士課程が良いのでは。
- ・ 医療現場のシーズを用いて臨床研究を行うためには、生物統計などの知識が必須であり、医師にとっても社会健康医学修士（MPH）のニーズは高いと思う。

イ 大学院の設置形態

- ・ 神奈川県では、県立保健福祉大学の中に学部を持たない独立の研究科としてヘルスイノベーション研究科を設置する計画となっている。
- ・ 静岡県でも同じように、県立大学の中に独立研究科を設置することはできないか。
- ・ 独立研究科は審査に5ヶ月、大学院大学は10ヶ月と、審査期間を見ても、独立研究科の方が、事務手間としては、はるかに軽減されるのではないか。

ウ 教育課程

- ・ 静岡でも他の公衆衛生大学院と差別化できる学科構成が必要。
- ・ 静岡の強みとして、例えば、ゲノム疫学のようなゲノムコホートの意味を理解してもらう科目を必修として入れても良いのではないか。
- ・ 医師が静岡県に定着してもらうために、地域枠で静岡県に来ている医師や、修学資金の貸与者の中から来てもらうことも考えてはどうか。

(2) 大学院大学の設置に向けた需要調査の実施について

ア 調査対象者

- ・ 今の大学生がそのまま学べる内容ではないので、最低でも卒業後5年くらい、あるいは、現場で働いている人という形で調査対象者を絞っても良いのではないか。

イ 調査項目

- ・ アンケート調査は、聞き方によって答えが変わってくる。大学院の教育理念をアピールする機会と捉えて設問を考える必要がある。